

特別支援教育研究委員会

1 研究テーマ

一人一人の生活を豊かにし、自立する力を育てる支援のあり方
～作業学習における評価を生かした支援のありかた～

2 研究内容

特別支援教育委員会では、これまで「自立する力」に焦点をあてて研究を深めてきている。委員会では「自立」の姿を「それぞれの障害の状態や発達段階に応じて、主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きようとする」と定義づけ、構想図を作成し、その方向に基づいた研究を重ねてきた。また、一昨年度から、自分たちの実践の原点にたちかえって、特別支援学級の生活づくり、授業づくり
に焦点をあてた実践研究を重ねている。昨年度は、より確かな学びにつながる評価と評価を生かした授業改善について研究し、個別の指導計画の「指導の方向」を再確認して修正を重ねることを大切にして、児童生徒の育ちにつながる評価の視点を確認することができた。今年度もこの方向を継続し、中学校の作業学習の場面を通して、評価を生かした支援のあり方について研究を深めてきた。

公開研究授業は、以下のように実施した。

期 日 平成22年11月17日（水）
単 元 名 作業学習「相森ブランドのクッキーを作ろう」
授業学級 須坂市相森中学校 ハーモニー・フレンズ
授 業 者 田中 潔 教諭 他3名
指 導 者 長野市立芹田小学校長 小嶋 瑞紀 先生

3. 研究の成果

(1) 評価を生かした授業改善に関わって

今年度も、研究推進委員が相森中学校の作業学習の場면을事前に参観させていただき、生徒の姿を評価し、個別の指導計画に基づいて支援の方向を検討し、単元の構想を考えた。以下、生徒の姿の評価をもとに支援の方向を導き出し、授業改善を進めた例を示したい。

< Aさんの教育課題 >

- ・様々な活動場で困ったことや、悩んでいることに対して、担任や支援員に伝えることができる。
- ・作業学習を中心に、見通しを持って最初から最後までやりとげることができる。

< 前単元における Aさんの姿 >

- ・はじめは、個々の作業を手際よくこなすことが難しかったが、一人でできる部分が増えた。
- ・粉を混ぜる時にいつまで混ぜればいいのかかわからず、声をかけないといつまでも続けている。

< この時期の作業学習 >

- ・バザーに向け、何度も繰り返し作業をしてきているので、一定の技能は身に付き、黙々と自分の作業に取り組むことができている。
- ・先輩が後輩に作業のやり方と教える雰囲気ができている。
- ・作業を効率的に進めていくために、教師からの指示が多く、生徒はやや受け身になりがちである。

生徒の姿の評価を生かした単元の構想へ